



エネルギー・経済安全保障小委員会
令和8年10月13日（火）

資料3



宮古市版シュタットベルケの取組

～ 再生可能エネルギーで持続可能なまちへ ～

浄土ヶ浜
いいイロ
1116



浄土ヶ浜エターナルグリーン

宮古市
政策推進部 エネルギー推進課





■ 地域内経済循環を作り出す

目指す姿 エネルギーの地産地消による自立的な地域経済の構築



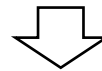
※出典：「地域経済循環分析 2022年版 Ver.9.1」
(環境省)

- ◆ 有効活用されていなかった地域資源をエネルギーに転換
⇒ 経済的な価値を創出
- ◆ エネルギーに関わる費用を市域内にとどめる



目指す姿 エネルギーの地産地消による自立的な地域経済の構築

地域内経済循環の創出



 市が積極的に参画 = 宮古市版シュタットベルケ

●エネルギー事業の利益を市民へ還元 「よりよい市民サービスの提供」

- ・誰もが移動しやすい公共交通
- ・子育て世帯への支援
- ・充実した教育環境
- ・活力に満ちた産業 など

⇒地域課題の解決へ



■ 宮古市版シュタットベルケの第一歩

令和7年度：約1,520万円の積立

① 令和2年度：『宮古市再生可能エネルギー基金』を創設

➢ 再生可能エネルギー施設への市有地貸付料を積立

② 令和3年度：『宮古発電合同会社』・『宮古新電力株式会社』への資本参加

➢ 配当金を再エネ基金へ積立

< 宮古発電合同会社：資本参加に関する協定締結式 >



- 令和3年4月6日：協定締結
- 令和3年6月：出資持分一部譲渡
(20%、121,200千円)

< 宮古新電力(株)：資本参加に関する協定締結式 >



- 令和2年11月16日：協定締結
- 令和3年6月：株式取得
(約20%、22,496千円)

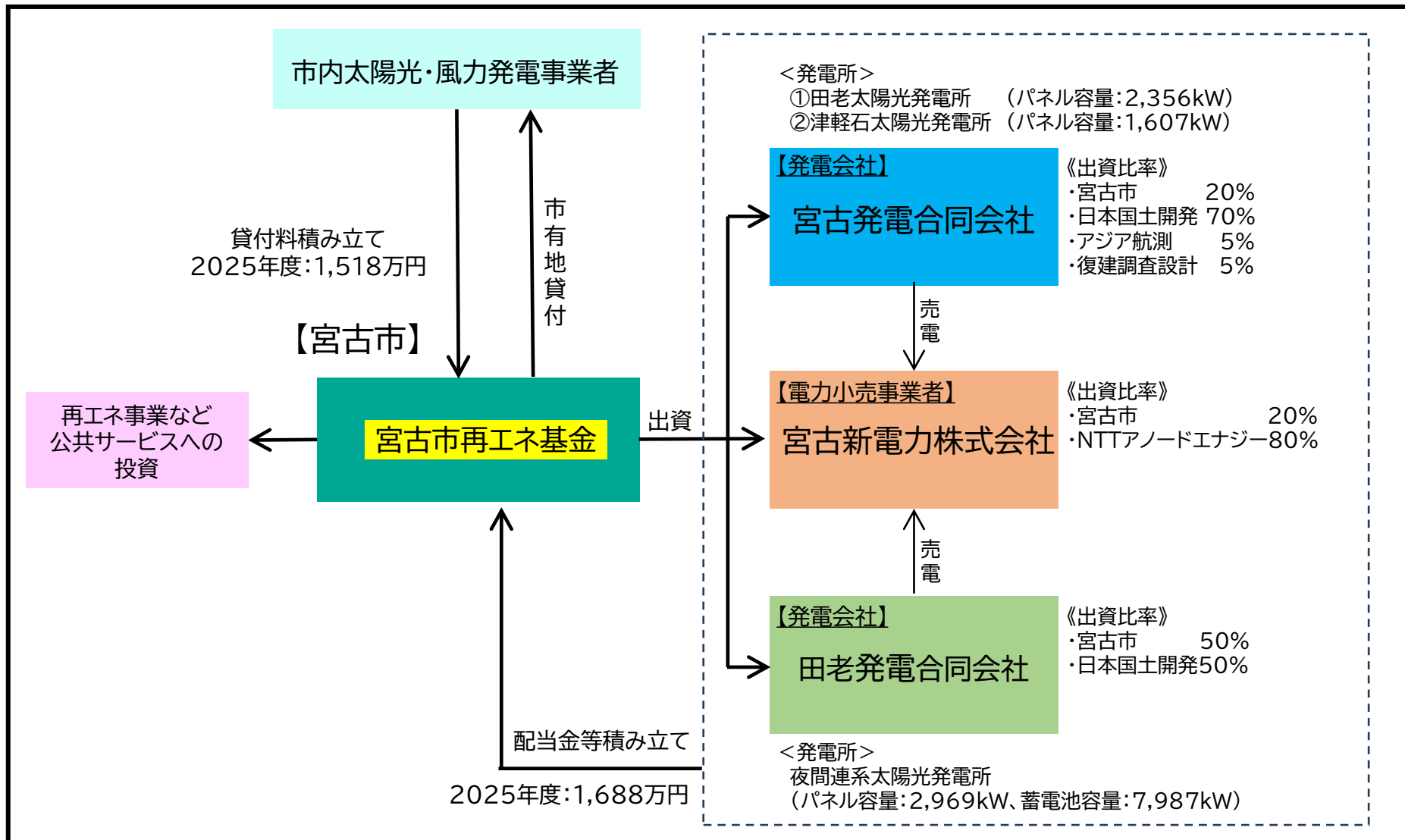
令和7年度：約1,068万円の配当

令和7年度：約254万円の配当

宮古市版シュタットベルケの取組



宮古市版シュタットベルケの仕組み



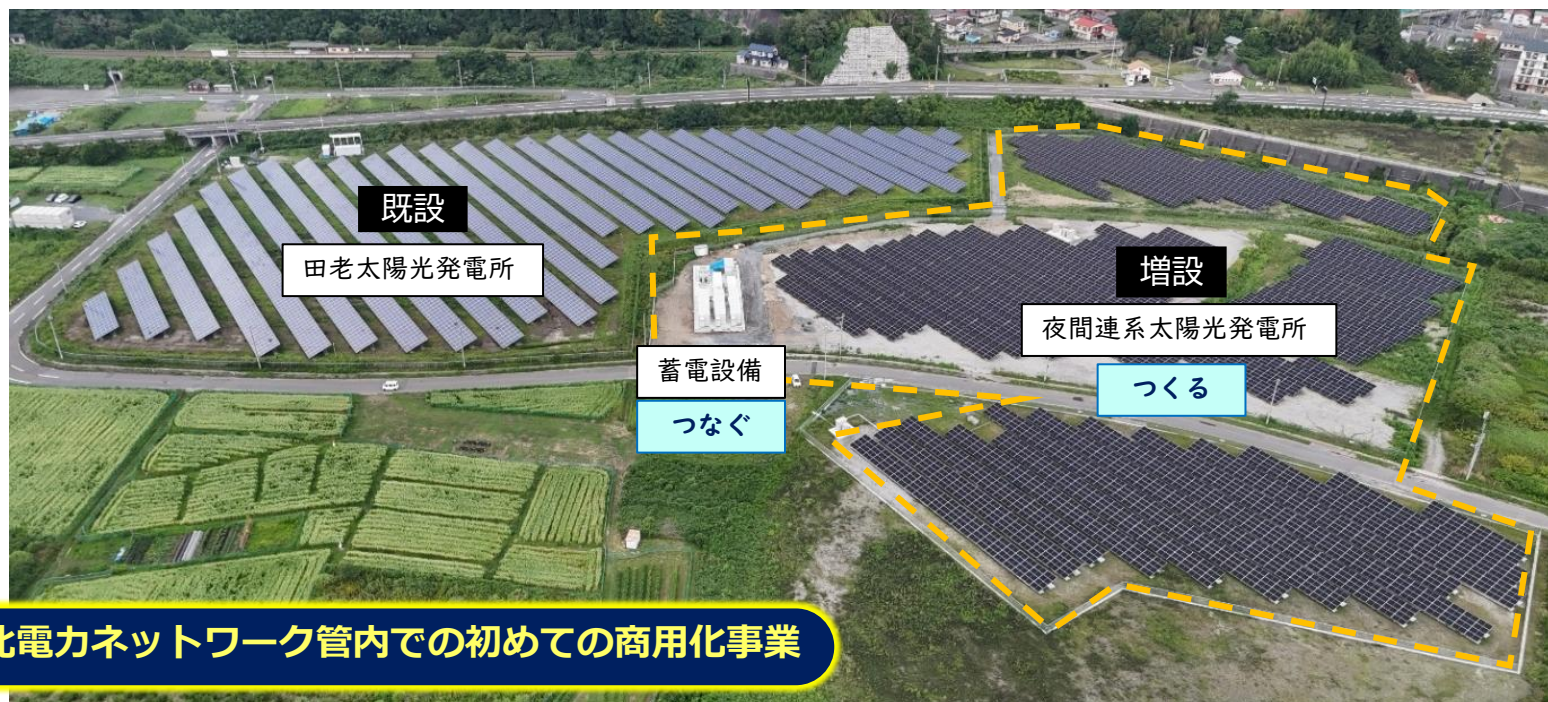


■ 宮古市再生可能エネルギー基金の活用

➤ 令和9年度までは、エネルギーの自律性向上に向けた事業への活用を予定

《再エネ基金の積立・繰入（令和6年度末～令和7年度末）》

令和6年度末 基金残高	令和7年度中増減		令和7年度末 基金残高
	積立額（+）	繰入額（-）	
55,523,320 円	<u>32,068,235 円</u> ● 宮古発電合同会社 10,680,163 円 ● 宮古新電力株式会社 2,542,640円 ● 再エネ施設への市有地貸付料 15,184,554円 ● 寄附金 3,500,000円 ・利子 110,878 円 など	<u>15,216,024円</u> ● 住宅用太陽光発電システム導入 ● 蓄電池システム導入 13,852,000 円 ● 電気自動車等導入 1,200,000 円 ● 電気料金（環境価値分） など 164,024 円	72,375,531 円



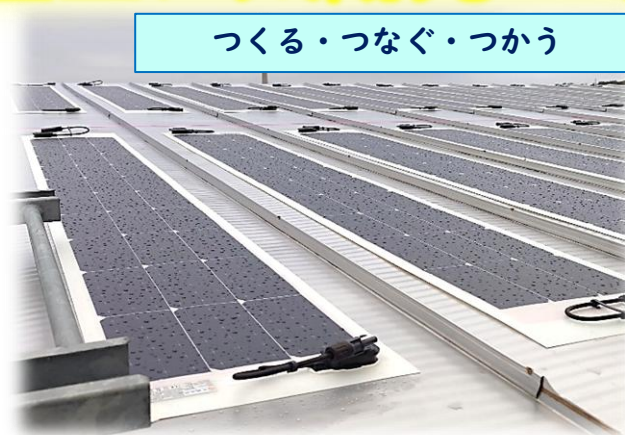
東北電力ネットワーク管内での初めての商用化事業

項 目	夜間連系太陽光発電所・蓄電設備の内容
事業主体	田老発電合同会社
出資者 (出資比率)	宮古市 (50%)、日本国土開発株式会社 (50%) ※出資金：1億2千万円
事業地	宮古市田老字向山13番1 ほか31筆
地積	33,832m ²
事業期間	令和7年12月から30年間 (事業計画上)

項 目	夜間連系太陽光発電所・蓄電設備の内容
設備容量	モジュール出力 : 2,969 kW
	PCS出力 : 1,980 kW
	蓄電池容量 : 7,987 kWh
売電先	宮古新電力株式会社
総事業費	14.5億円 (内、約10.4億円が補助金)



イーストピアみやこ屋上に太陽光パネル?!



つくる・つなぐ・つかう

イーストピアみやこは、
太陽光発電とCO2フリー
電力の利用で、
電気の使用による
CO2排出量がなんと
「ゼロ」
の施設なんだボン!



PPA太陽光発電設備導入事業※により、イーストピアみやこに太陽光パネルが設置されました！
使用されたのは『フレキシブルソーラーパネル』という軽量で薄型なのが特徴のパネルです！
太陽光パネルが載せられないとされていたイーストピアみやこですが、“軽量”というメリットを活かし、
なんと497枚の太陽光パネルが設置されました♪ ※「脱炭素先行地域づくり事業」のひとつ。脱炭素に力を入れて取り組んでいます。

事業内容

- 事業名 PPAによる公共施設太陽光発電・蓄電池設備導入事業
- 事業主 東光電気工事株式会社
- 事業費 6,734万円（税抜き）うち補助額 4,489万円
- 太陽光パネル 145.5kW（497枚）
- 想定発電量 120,000kWh/年（自家消費率100%）
- 電気料金削減見込
 - 太陽光パネル導入前：電気料金 34.94円/kWh
 - パネル導入後：PPA単価 29円/kWh
- 契約電力の見直し：680kW→540kW⇒290万円/年おトクに！
- 20年間合計：約7,100万円の削減見込！
- CO2排出削減量 52.56t-CO2/年



65万円/年
おトクに！

フレキシブルソーラーパネル概要

- 特徴…超軽量（重さ：3.0kg/m²）、超薄型（厚さ：2.5mm）
※一般的なパネルの重さは15～20kg/m²
- 優れた柔軟性（シリコン樹脂製）、容易な運搬・施工、
反射が少なく、鉛フリーで環境にやさしい

県内初！

? PPAってなに？

PPA（Power Purchase Agreement）は「電力購入契約」のことで、主に太陽光発電を導入するときに使われる方法。
ざっくり言うと、発電設備を自分で買わずに、発電事業者が設置し、その電気を契約して使うスタイル！初期費用ゼロで始められるのが、大きなメリットです。

■ 共創MaaS実証プロジェクト

1 事業名 宮古市版シュタットベルケを活用した 電力の地産地消による電気バス運行事業

エネルギー×交通

<共創・MaaS実証プロジェクト>

- ・ 国土交通省の公募型補助事業
(令和6年5月9日採択)
- ・ 地域の多様な関係者の「共創」により
地域交通の維持・活性化に取り組む
実証プロジェクトを支援

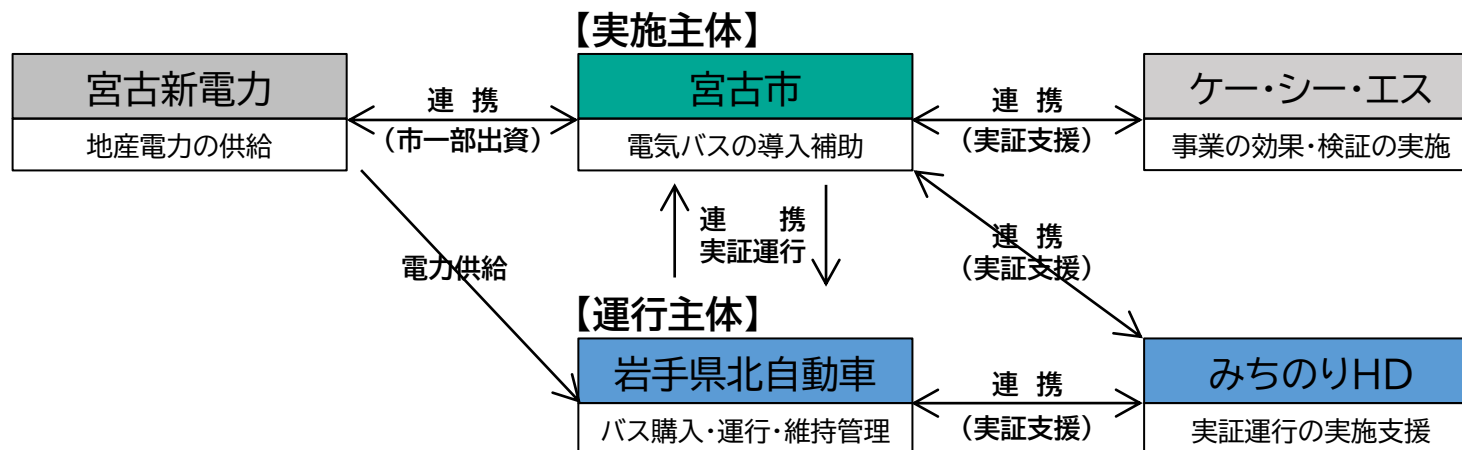
- ### 2 主な事業内容
- EVバス導入（3台）
 - ▷ 乗車定員 : 32名（小型、低床）
 - ▷ 航続距離 : 210km（冷房起動時）
 - ▷ バッテリー容量 : 138.3kWh
 - 宮古市産電気でするEVバスの実証運行
 - EVバスに対する住民意識や行動変容の調査

● 令和6年11月21日（木）電気バス出発式





■ 共創MaaS実証プロジェクト (実証事業の役割)



(実証事業の効果)

● 市民の外出機会の増加や公共施設の利用拡大に寄与

➡ バスの利用実績等から公共交通の利用拡大につながった結果がみられた

● CO2排出量の削減に寄与

➡ 車の利用機会の減少につながっており、環境負荷の軽減に寄与している



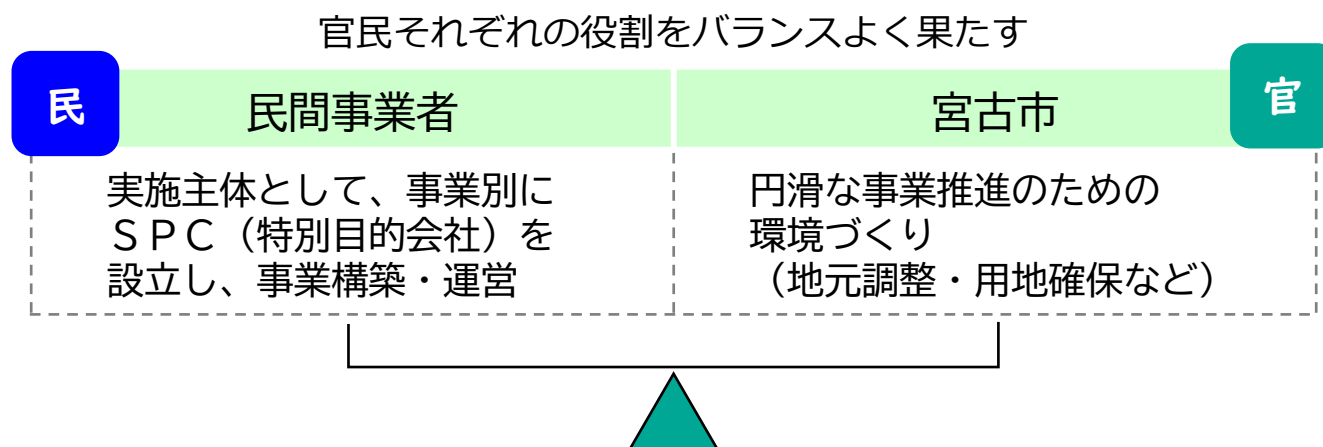


再エネ事業を成立させるための『官』と『民』の在り方

■ 取組を進める上で重要な視点 — 民間事業者との関係性 —

甲乙関係ではない『ビジネスパートナー（運命共同体）』

● お互いの強みを活かすことで再エネ事業を成功させることができる ●



『Win-Win』の関係を構築することが重要



ご清聴ありがとうございました

三陸復興国立公園 浄土ヶ浜

市の最新情報は市HP
からご覧になれます→

